

⑫

# 中央図書館事業

【中央図書館】

資料

外部評価実施日：令和元年8月6日（火）

# 令和元年度 “「長久手市役所の仕事」通知表” の作成 ～長久手市行政評価・外部評価～

## 中央図書館事業

教育部 中央図書館

まちづくり、まずは笑顔でこんにちは

長久手市はあいさつ運動に取り組んでいます

1

## 1 事業概要（A票）

### ◆事業の名称

中央図書館事業

### ◆事業の開始の背景、経緯等

昭和終期、人口増加傾向が続く中、長久手には図書館はなく、中央図書館開館前は杵ヶ池体育館の一室を図書室として運営していた。住民からの図書館設立の要望を受け、平成2年、図書館設立構想委員会を発足し、平成4年6月に開館した。町制20周年記念事業の一つであり、住民の読書活動、憩い、集う場として図書館事業を開始した。

2

## 2 事業の実施体制（A票）

### ◆組織体制、人員

- 正規職員：8名（うち司書1名）
- 図書館嘱託職員：4名（図書館に常駐）
- 学校連携嘱託職員：5名（図書館から小中学校へ派遣）
- 図書館臨時職員：6名

計23名

3

## 3(1) 事業目的等（A票）

### ◆事業内容（どのような事業なのか）

- 図書館法に基づく図書館運営に必要な業務。
- 図書資料を収集、整理、保存し、市民に提供する。

### ◆事業対象（誰、何を対象にしているか）

市民を始めとする図書館利用者。貸出対象は、市在住、在学、在勤、在園者と広域地区利用者（瀬戸市、尾張旭市、日進市、豊田市、名古屋市名東区、守山区）。

4

## 3(2) 事業目的等 (A票)

### ◆事業意図 (対象をどのような状態にしたいか)

市民の教養の向上、調査研究等の課題解決、レクリエーション及び生涯学習活動の充実を目的とし、市民の読書活動が活発になる。

### ◆事業を構成する事務事業 (B票)

① 中央図書館運営事業

② 中央図書館管理事業

③ 講座等企画事業

5

## 4 事務事業の目的・活動状況【事務事業①】 (B票)

### ◆事業を構成する事務事業

中央図書館運営事業

### ◆目的 (対象・手段、意図)

対象・手段：市民を始めとする図書館利用者に対し、  
図書等を収集、整理、保存し、提供する。  
意図：市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資  
することを目的とし、市民の読書活動の活性化を  
図る。

### ◆事務事業の活動状況

- 1 図書の貸出及び整理事業、調査・統計業務、館内企画展示、地域資料の収集、障がい者サービス、相互貸借、近隣他館との連携事業、団体貸出、図書ボランティアとの協働、図書館見学・職場体験受入など。
- 2 ブックスタート事業、学校連携事業、児童館連携事業などの子ども読書活動推進計画の推進。

6

# 第2次子ども読書活動推進計画の主な事業



ブックスタート事業



学校連携事業



児童館連携事業

7

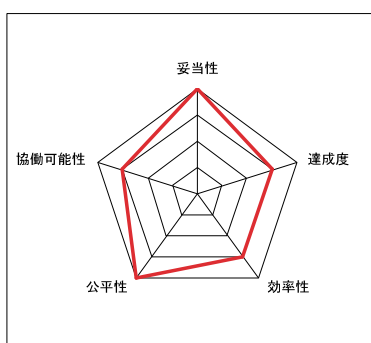
## 4 事務事業の目的・活動状況【事務事業①】 (B票)

### ◆前年度からの改善状況

- ・ 第2次子ども読書活動推進計画の平成30年度取組項目は、62%目標達成した。
- ・ 郷土行政資料は197冊収集し、特別整理期間で特別資料閲覧室の開架及び閉架の図書を200冊程入れ替えた。

### ◆事務事業の評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	3



8

## 4 事務事業の目的・活動状況【事務事業①】 (B票)

- ◆協働可能性について
  - ・市民参加の延べ人数

図書ボランティア登録者数 84人

- ・協働の状況

おはなし会、図書修理、返本・書架整理等の図書ボランティアが継続的に参加している。平成30年度は、新たに障がい者向け図書である点訳絵本の作成を点訳ボランティアと協働で開始した。

9

## 障がい者向け図書

### 点訳絵本

#### 【点訳絵本とは】

文章を点訳し、絵に凹凸を付けた本のことで、手に触れる感触で楽しめるよう工夫されている。



#### ボランティアと協働

- ・点訳ボランティア「長久手点字サークル」が作成
- ・中央図書館司書が本を選書(20冊)

10

## 4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業①】 (B票)

### ◆活動エピソード

- ・平成30年8月から、館外返却ポストを市が洞小校区共生ステーションに増設し、館外の返却場所を合計3か所とした。
- ・市内の全児童館に司書が選定した良質な図書を貸出す「団体貸出」を行った。
- ・長久手高校と連携し、高校生による本のPOP展示企画を中央図書館で開催した。

### ◆改善ポイント

- ・子どもの利用増加に伴い、おはなし会の開催数を増やすため、ボランティアの育成・増員が課題である。
- ・ボランティアの年齢が高齢化しているため、新たな人材を育成し、おはなし会の継続と拡大に努める。

### ◆今後の方向性

拡充

11

## 高校生による本のPOP展示

### 長久手高校と連携



- ・図書委員、1、2年生による手作りの本のPOPを中央図書館で展示(20タイトル程)
- ・長久手高校で人気のある本と中央図書館の中高中生向棚でよく読まれている本を貸出(70冊程)

12



## 4 事務事業の目的・活動状況【事務事業②】 (B票)

### ◆事業を構成する事務事業

中央図書館管理事業

### ◆目的（対象・手段、意図）

対象・手段：市民を始めとする図書館利用者が快適に施設利用できるよう、図書館設備の管理・運営をする。

意図：市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とし、市民の読書活動の活性化を図る。

### ◆事務事業の活動状況

図書館施設の維持管理（清掃、植栽、設備保守点検・更新、建物修繕など）

13

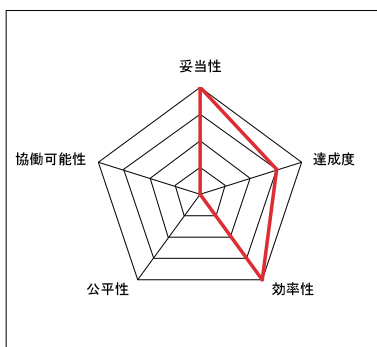
## 4 事務事業の目的・活動状況【事務事業②】 (B票)

### ◆前年度からの改善状況

建物の適正なメンテナンスを行うため、市でまとめた公共施設点検マニュアルを活用し、職員による建物の目視確認を継続し修繕計画に反映させる。

### ◆事務事業の評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	4
公平性	-
協働可能性	-



14



#### 4 事務事業の目的・活動状況【事務事業②】 (B票)

- ◆協働可能性について
  - ・市民参加の延べ人数

該当なし

- ・協働の状況

図書ボランティアは「図書に関わること」で活動しており、中央図書館管理事業での協働はない。

15

#### 4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業②】 (B票)

- ◆活動エピソード

- ・利用者の快適性向上のために、1階に読書用椅子を11席増設した。
- ・1階部分全ての席で利用者の持込端末が使用できるようフリーWi-Fiを導入し、利便性を高めた。

- ◆改善ポイント

- ・修繕計画を作成し、計画的に修繕することにより建物の長寿命化を図る。
- ・利用者の持込端末の電源を確保するために図書館の机等に電源を設置する必要がある。

- ◆今後の方向性

拡充

16

# 読書用椅子を増加

11席増加



文庫本棚に隣接



円形フロアに設置

17

## 4 事務事業の目的・活動状況【事務事業③】 (B票)

### ◆事業を構成する事務事業

講座等企画事業

### ◆目的（対象・手段、意図）

対象・手段：市民を始めとする図書館利用者に対し、  
図書館講座やギャラリー企画展示を実施する。

意図：生涯活動の場として市民が図書館を活発に利用するとともに、市民が図書館事業へ参加できるようにする。

### ◆事務事業の活動状況

図書館講座、ギャラリー企画展示会を実施。

18

# 講座等企画事業



図書館講座



現代美術展



中学生美術展



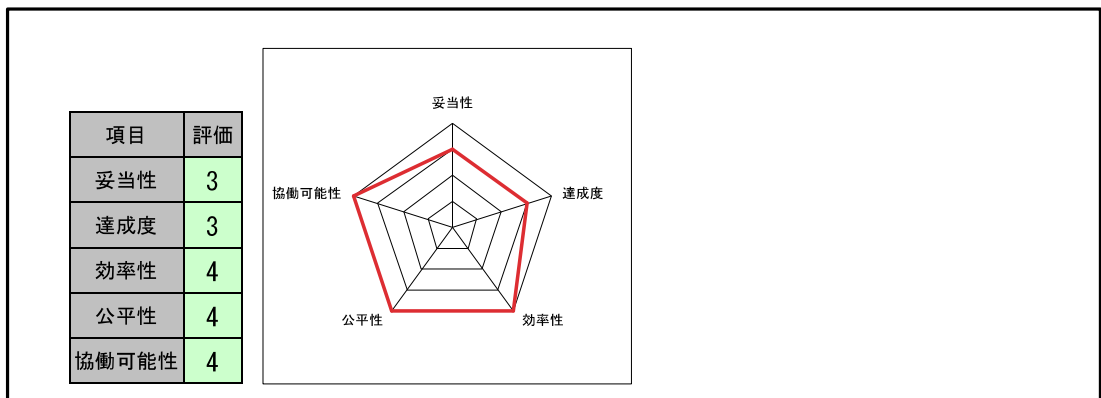
19

## 4 事務事業の目的・活動状況【事務事業③】 (B票)

### ◆前年度からの改善状況

- ・現代美術展の企画内容を見直す方向で県芸大と協議し始めた。テーマや展示方法等、今後、新たな取組を考える。
- ・長寿課、社会福祉協議会とのコラボ企画として、認知症についての企画展示を催すとともに、福祉の家の認知症啓発本棚（オレンジ棚）設立に協力した。

### ◆事務事業の評価



20

## 他課との連携

### 認知症啓発本棚「オレンジ棚」(長寿課)への協力



「福祉の家」へ本の団体貸出



中央図書館で展示

21

## 4 事務事業の目的・活動状況【事務事業③】 (B票)

- ◆協働可能性について
  - ・市民参加の延べ人数

図書修理ボランティア養成講座参加者数 8人

- ・協働の状況

図書修理ボランティア養成講座(上級編)を開催した。受講者は、図書ボランティアとして図書館の破損本の修理を担い、その実績は年間約2,000冊に及んでいる。

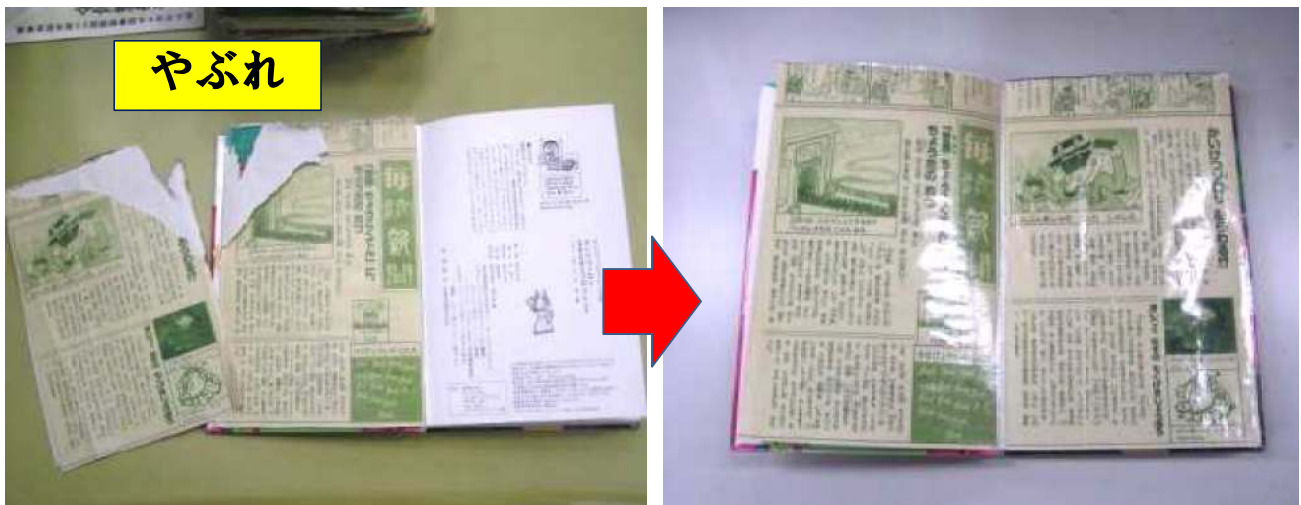
22



# 図書修理ボランティアによる本の修理

修理前

修理後



年間約2,000冊の本を修理

23

## 4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業③】 (B票)

### ◆活動エピソード

図書修理ボランティアが新たに布絵本の修理を試みることとなった。障がい者向け図書のサービス拡大につながる。

### ◆改善ポイント

- ・ 図書館講座の種類・回数を増やし、市民の参加を促していきたい。
- ・ 経験値の高い図書修理ボランティアが増えているため、関連施設での図書修理の講師等、活躍の場を増やしたい。

### ◆今後の方向性

拡充

24

## 5 コスト（A票）

### ◆平成30年度事業費

93, 885千円

### ◆平成30年度人件費

57, 342千円

### ◆事業費の主な内訳

1	中央図書館運営事業	68, 819千円
	内訳：一般事務嘱託員報酬	20, 958千円
	図書資料	20, 000千円
2	中央図書館管理事業	24, 901千円
	内訳：清掃等管理委託	8, 265千円
	駐車場・駐輪場借地料	4, 484千円
3	講座等企画事業	165千円
	内訳：ギャラリー企画展報償金	90千円
	図書館講座等講師謝礼	30千円

25

## 6 事業の成果【成果指標①】 （A票）

### ◆事業の成果指標

市内利用者の貸出点数

### ◆事業の成果目標

330, 000点

### ◆事業の成果実績

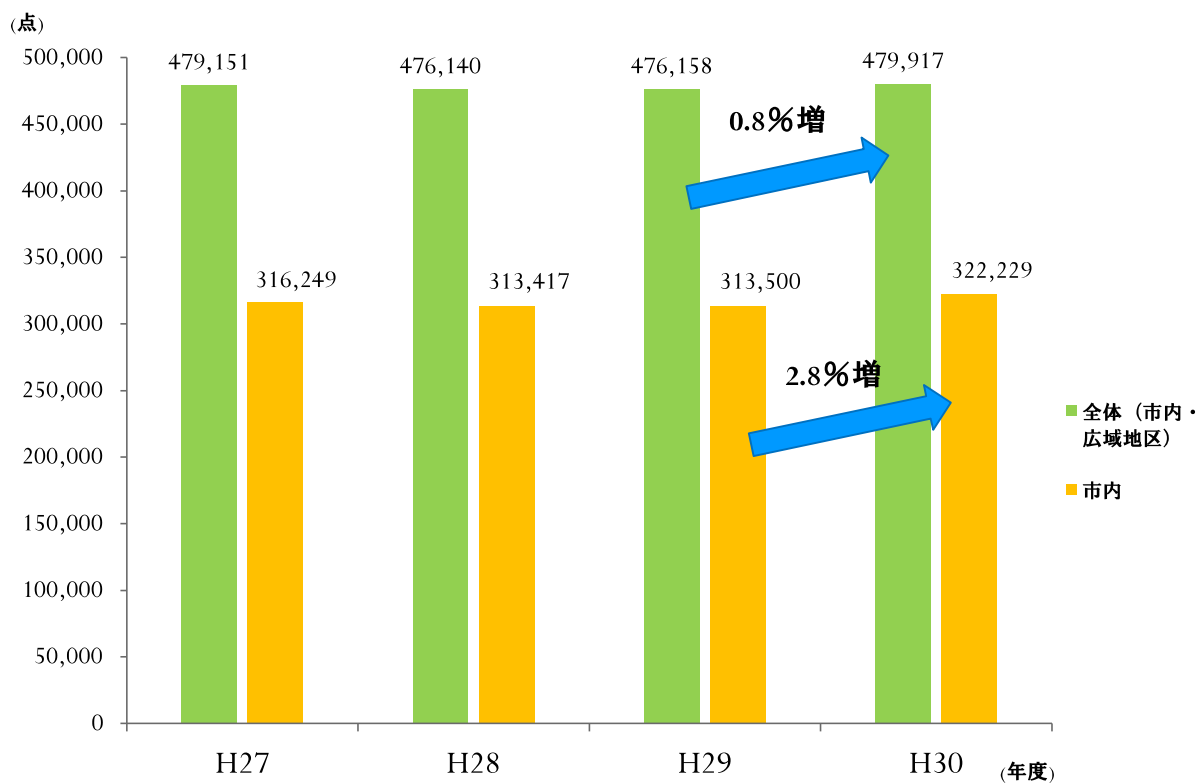
322, 229点

### ◆成果指標、目標等の設定理由

長久手市民への個人貸出の貸出総点数の増減が、長久手市民の利用状況を端的に表しているため。

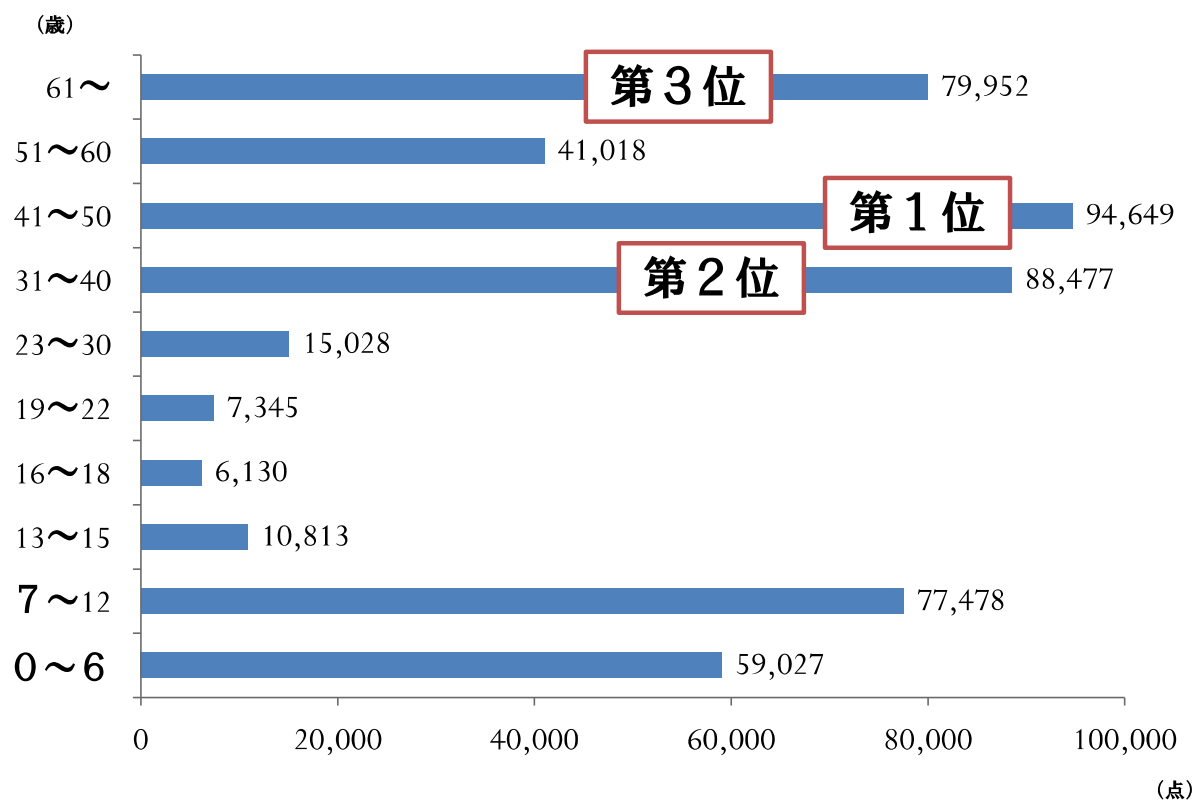
26

## 個人貸出点数(全体・市内)



27

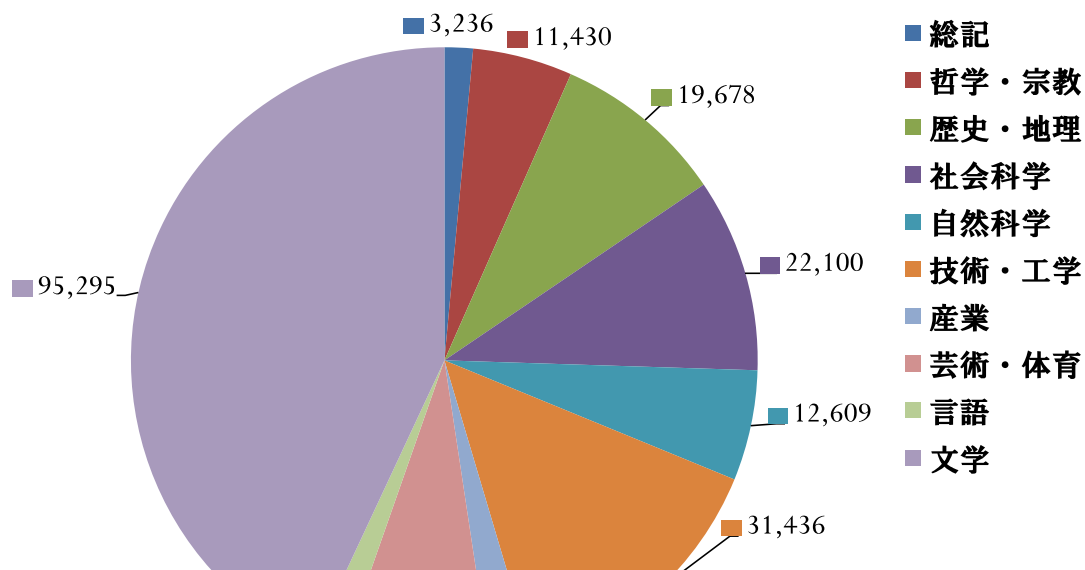
## 年齢別貸出点数グラフ



28

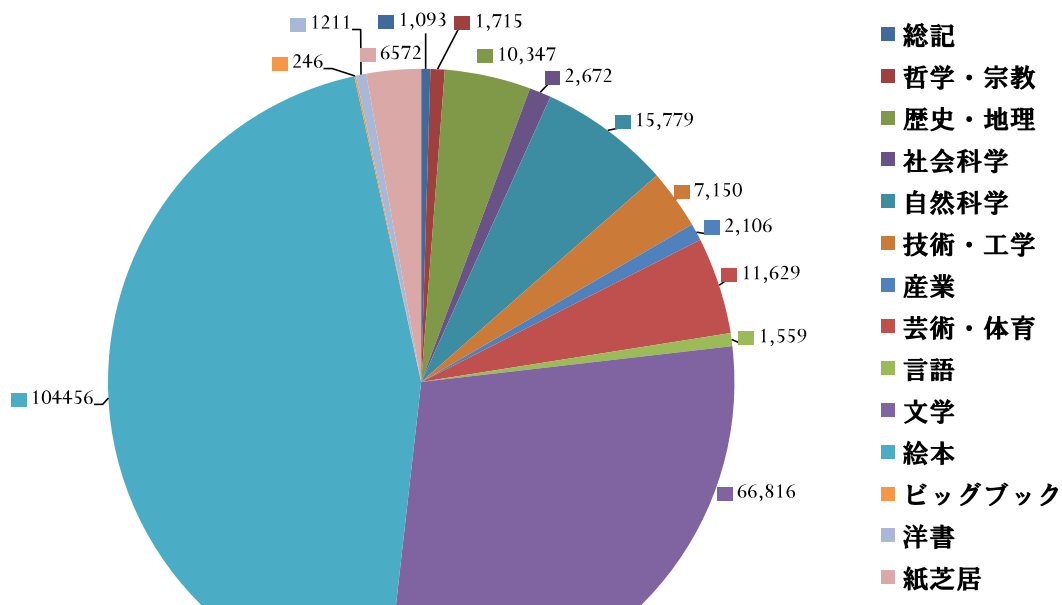


## 分類別貸出点数：一般書



利用の多い分野は文学、技術・工業、社会科学  
前年度比で総記が14%増加、歴史・地理が4%増加

## 分類別貸出点数：児童書



利用の多い分野は絵本、文学、自然科学  
前年度比で歴史・地理、技術・工学、  
紙芝居が10%増加

## 6 事業の成果【成果指標②】 (A票)

### ◆事業の成果指標

第2次子ども読書活動推進計画事業の進捗率

### ◆事業の成果目標

20%

### ◆事業の成果実績

12%

### ◆成果指標、目標等の設定理由

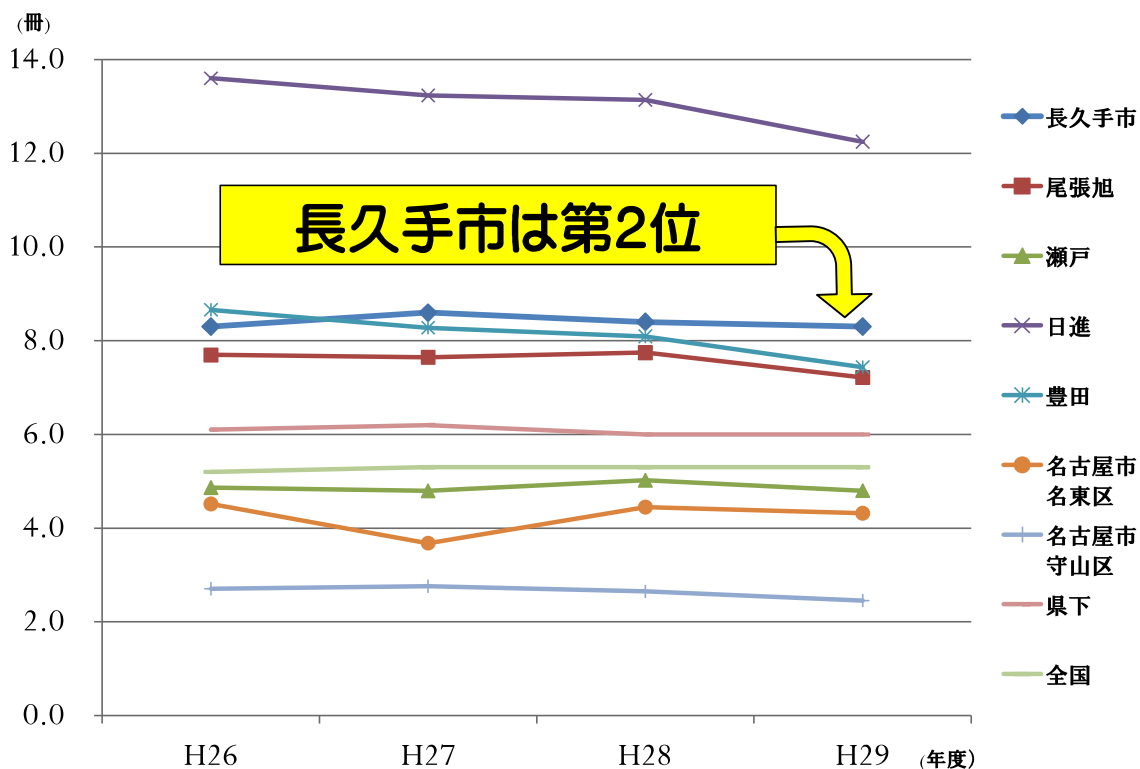
第2次子ども読書活動推進計画（平成30年度から令和4年度までの5年計画）の各事業の達成状況の割合から計画全体の進捗率が判断できる。

## 7 環境変化（A票）

### ◆近隣市町の取組状況や事業を取り巻く環境変化

近隣市（瀬戸市、尾張旭市、日進市）の中で平成29年度現在「市民一人あたりの貸出点数」は、当市は第2位である。愛知県内での子ども読書活動推進計画の策定状況は73%である。

# 市民一人当たりの年間貸出冊数



33

## 8 事業の評価（A票）

### ◆事業の目標達成状況

市内利用者の貸出点数は平成29年度よりも約3%増加となった。他の統計値では、新規登録者数も3%増加した。第2次子ども読書活動推進計画の平成30年度分の目標は全体の62%達成した。

### ◆事務事業全体を見た課題

市内登録率が人口の約55%であるため、新たな施策を検討し、市内を始めとした新規登録者と貸出冊数の増加を図りたい。

34

## 9 事業の今後（A票）

### ◆事業の今後の方向性

- ・ 郷土行政資料のレファレンス（資料の調査照会）強化を図ると共に、レファレンスカウンターへ職員を常駐化させて、地域の情報センターを目指す。
- ・ 第2次子ども読書活動推進計画の目標値達成に努め、学校や児童館等との連携事業を拡充していく。
- ・ 図書ボランティアと協働し、市民参加型の図書館運営を継続する。

### ◆事業の中長期の目標

- ・ 郷土行政資料を年間約200冊を目標に収集する。
- ・ 第2次子ども読書活動推進計画に上げている「中央図書館での小学生までの貸出冊数」を年約3,300冊増加させる。

35

## 10 事業のまとめ

### ◆事業の課題など

- ・ 児童向け図書の貸出は増加傾向にあり、他機関との連携も拡大しているが、一般書及び郷土資料なども充実化し、中央図書館全体のサービスの向上が必要。そのために、既存事業の改善や見直しも必要である。
- ・ 市民参加型図書館としてボランティアとの協働は不可欠であり、新規参加者の育成と継続的な参加を得ることが課題である。

### ◆外部評価実施者に助言をもらいたいことなど

子どもの読者層を増やすことは、将来的に中央図書館の利用者を増やすことにつながるため、学校や児童館等との連携に力を入れていきたいが、子どもへの読み聞かせ等を担う市民ボランティアの協力をいかに得るかが鍵となるため、ボランティアとの関わりを良好に発展、継続する方策について助言をいただきたい。

36

## 長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	093 -	事業名	中央図書館事業			担当部課	教育部中央図書館			
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 文化をみがき、人が輝くまち	会計区分	一般会計						
	まちづくり行程表・フラッグ	—		予算区分(款 - 項 - 目)						
	第6次総合計画・基本目標	✓ 子どもが元気に育つまち	9-4-4 図書館費							
	法定受託事務の有無	—								
	その他(関係計画、要綱等)	✓	図書館法、第2次子ども読書活動推進計画							
	事業開始の背景、経緯等	市民の読書活動を支える場として、平成4年に開館した。								
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 図書館法に基づき、図書等を収集、整理、保存し、市民に提供する。								
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民を始めとする図書館利用者。貸出対象は、市在住、在学、在勤、在園者と広域地区利用者(瀬戸市、尾張旭市、日進市、豊田市、名古屋市名東区、守山区)。								
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民の教養の向上、調査研究等の課題解決、レクリエーション及び生涯学習活動の充実等を意図する。								
	事業を構成する事務事業(B票)	① 中央図書館運営事業	拡充	④						
	② 中央図書館管理事業	拡充	⑤							
	③ 講座等企画事業	拡充	⑥							
コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)		
	事業費(A)	千円	予算	159,291	89,493	92,309	96,705	97,375		
			決算	144,189	86,851	88,861	93,885			
	人件費(B)	千円	決算	37,199	34,531	46,719	57,342			
総コスト(A)+(B)	千円	決算	181,388	121,382	135,580	151,227				
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)		
	A 市内利用者の貸出点数	点	目標	296,266	308,110	320,400	330,000	328,000		
			実績	314,331	310,802	311,642	322,229			
	B 第2次子ども読書活動推進計画事業の進捗率	%	目標	—	—	—	20	30		
			実績	—	—	—	12			
	C		目標							
			実績							
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)										
A 長久手市民への個人貸出の貸出総点数の増減が、長久手市民の利用状況を端的に表しているため。										
B 第2次子ども読書活動推進計画(H30年-34年、5年計画)の各事業の達成状況の割合から計画全体の進捗率が判断できる。										
C										
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市(瀬戸市、尾張旭市、日進市)の中でH29年度現在「市民一人あたりの貸出点数」は、当市は第2位である。愛知県内での子ども読書活動推進計画の策定状況は73%である。								
	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 市内利用者の貸出点数はH29年度よりも約3%増加となった。他の統計値は、新規登録者数も3%増加した。第2次子ども読書活動推進計画のH30年度分の目標は全体の62%達成した。								
評価	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 貸出冊数全体は横ばいであるが、種類別では児童書の貸出が増加傾向であるため、子ども読書活動推進計画の成果が上がっていると考えられる。図書ボランティアの登録者数は増えており、その結果、ボランティアの経験年数も伸び、図書館が生きがい形成の場としての機能を高めている。								
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市内登録率が人口の約55%であるため、新たな施策を検討し、市内を始めとした新規登録者と貸出冊数の増加を図りたい。								
	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 郷土行政資料のレファレンス強化を図ると共に、レファレンスカウンターへ職員を常駐化させて地域の情報センターを目指す。第2次子ども読書活動推進計画の目標値達成に努め、学校や児童館等との連携事業を拡充していく。図書ボランティアと協働し、市民参加型の図書館運営を継続する。								
中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 郷土行政資料を年間約200冊を目標に収集する。第2次子ども読書活動推進計画に上げている「中央図書館での小学生までの貸出冊数」を年約3,300冊増加させる。									

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・指定管理の導入を検討してください。</li><li>・図書の管理にICチップ、セルフレジの導入と合わせて、窓口職員の削減を検討してください(費用対効果の検証を行ってください)。</li><li>・行政改革指針に基づき、アウトソーシング(指定管理者制度、外部委託など)を検討してください。</li><li>・近隣市町だけでなく、広範囲で比較検討してください。(貸出点数のみではなく、『総コスト』も比較してください。)</li></ul>
------	-------------------------	--

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	中央図書館事業		担当部課	教育部中央図書館	決算書ページ	—
事務事業名	①	中央図書館運営事業	予算区分	9-4-4 図書館費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成4年度（1992年度）	終了（予定）年度	—		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を始めとする図書館利用者に対し、図書等を収集、整理、保存し、提供する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とし、市民の読書活動の活性化を図る。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	67,292 75,616	66,044 62,152	71,506 69,815	70,135 68,819	70,879
<備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）>							
(1)		一般事務嘱託員報酬					20,958 千円
(2)		図書資料					20,000 千円
(3)		光熱水費					9,963 千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
小学生までの貸出冊数	冊	見込 実績	— 126,750	— 130,629	— 133,477	— 136,505	139,700
郷土行政資料の受入数	冊	見込 実績	— 309	— 239	— 188	— 197	200
<備考：活動の概要（30年度(2018)）>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>中央図書館で貸出しされた小学生までの冊数を読書の好きな子どもが増える指標とする。</li> <li>郷土行政資料の受入冊数を司書業務である地域資料収集事業の指標とする。</li> </ul>							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

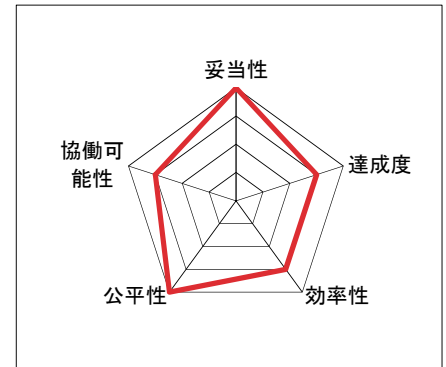
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 子ども読書活動推進計画の策定が全国的に進み、図書館が学校や児童館、保育園等の外部施設と連携する事業形態が増えている。
--

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
70,135 千円 70,879 千円 744 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】
<ul style="list-style-type: none"> <li>「第2次長久手市子ども読書活動推進計画」を策定したことから、計画に記された各種取組を実施していく。</li> <li>行政資料を含めた郷土資料の収集、保存、整理を行う。</li> </ul>
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次子ども読書活動推進計画のH30年度取組項目は62%目標達成した。</li> <li>郷土行政資料は197冊収集し、特別整理期間で特別資料閲覧室の開架閉架の図書を200冊入れ替えた。</li> </ul>

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	3



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数（人） 図書ボランティア登録者数				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	70	80	70	90
実績	76	65	84	

### (2) 協働の状況（30年度(2018)）

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など) おはなし会、図書修理、返本書架整理等の図書ボランティアが継続的に参加している。H30年度は、新たに障がい者向け図書である点訳絵本の作成を点訳ボランティアと協働で開始した。
--

(活動のエピソード、コメント、特記事項など) <ul style="list-style-type: none"> <li>H30年8月から館外返却ポストを市が洞小校区共生ステーション1か所を増設し、館外の返却場所を合計3か所とした。</li> <li>市内の全児童館に司書が選定した良質な図書を貸出す「団体貸出」を行った。</li> <li>長久手高校と連携し、新たに高校生による本のPOP展示企画を中央図書館で開催した。</li> </ul>
--

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など) 子どもの利用増加に伴い、おはなし会の開催数を増やすため、ボランティアの育成・増員が課題である。ボランティアの年齢が高齢化しているため、新たな人材を育成し、おはなし会の継続と拡大に努める。
---

## 7. 今後の方向性

拡充



# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	中央図書館事業		担当部課	教育部中央図書館	決算書ページ	—
事務事業名	②	中央図書館管理事業	予算区分	9-4-4 図書館費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成4年度（1992年度）	終了（予定）年度	—		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を始めとする図書館利用者が快適に施設利用できるよう、図書館設備の管理・運営をする。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とし、市民の読書活動の活性化を図る。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	91,779	23,086	20,440	26,286	26,211
		決算	68,423	24,523	18,884	24,901	
<備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）>							
(1)		清掃等管理委託				8,265	千円
(2)		駐車場・駐輪場借地料				4,484	千円
(3)		火災報知設備改修工事				4,428	千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
清掃委託日数	日	見込	309	306	305	308	307
		実績	309	306	305	308	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要（30年度(2018)）>							
日常清掃及び毎月の全館清掃（カーペットクリーニング、床面洗浄、ガラス清掃等）の日数							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

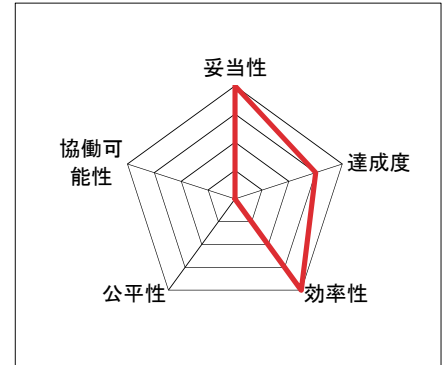
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 日本人の生活様式の変化に伴い、利用者から洋式トイレの数を増やすことが求められている。
--

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
26,286 千円 26,211 千円 Δ 75 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】
施設の建物診断を行い、修繕計画を作成し計画的に修繕することで建物の長寿命化を図っていく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
建物の適正なメンテナンスを行うため、市でまとめた公共施設点検マニュアルを活用し、職員による建物の目視確認を継続し修繕計画に反映させる。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	4
公平性	—
協働可能性	—



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数（人）				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	—	—	—	—
実績	—	—	—	—
(2) 協働の状況（30年度(2018)）				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
図書ボランティアは「図書に関わること」で活動しているため該当なし。				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
・利用者の快適性向上のために、1階に読書用椅子を11席増設した。 ・1階部分全ての席で利用者の持込端末が使用できるようにし、利便性を高めた。(Wi-Fi対応可)

### (改善が必要なこと、改善の方法など)

・修繕計画を作成し、計画的に修繕することにより建物の長寿命化を図る。 ・利用者の持込端末の電源を確保するために図書館の机等に電源を設置する必要がある。
--

## 7. 今後の方向性

拡充
----

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	中央図書館事業		担当部課	教育部中央図書館	決算書ページ	—
事務事業名	③	講座等企画事業	予算区分	9-4-4 図書館費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成4年度（1992年度）	終了（予定）年度	—		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を始めとする図書館利用者に対し、図書館講座やギャラリー企画展示を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 生涯活動の場として市民が図書館を活発に利用するとともに、市民が図書館事業へ参加できるようにする。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	220	363	363	284	285
		決算	150	176	162	165	
<備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）>							
(1)		ギャラリー企画展報償金				90	千円
(2)		図書館講座等講師謝礼				30	千円
(3)		印刷製本費				22	千円

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
講座参加者数	人	見込	30	40	40	13	13
		実績	30	60	22	8	
ギャラリー企画 展示回数	回	見込	2	3	4	4	3
		実績	2	4	3	3	
<備考：活動の概要（30年度(2018)）>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館修理ボランティアを対象とした上級者向け図書館修理講座の参加者数</li> <li>ギャラリー企画展示の実施回数（H30年度：現代美術展、中学生美術展、折り紙展）</li> </ul>							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

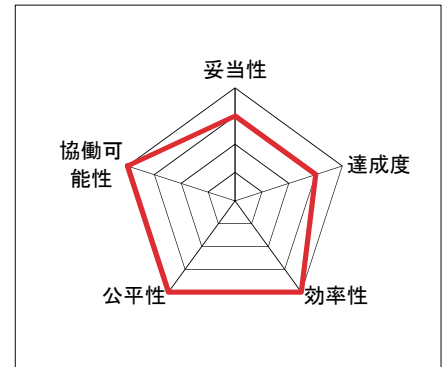
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
・他館では、講座やイベントの企画内容が多様化している。

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
284 千円 285 千円 1 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 改善・見直し
・前年度【コメント】
<ul style="list-style-type: none"> <li>美術展等の企画展示は、催事内容について中央図書館で行う意義を改めて検討したい。</li> <li>講座・企画の種類についても、図書の子にとられない「認知症と読書」など、視野を広げたテーマ設定を検討していきたい。</li> </ul>
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
<ul style="list-style-type: none"> <li>現代美術展の企画内容を見直す方向で県芸大と協議し始めた。テーマや展示方法等、今後、新たな取組を考える。</li> <li>長寿課、社会福祉協議会とのコラボ企画として、認知症についての企画展示を催すとともに、福祉の家の認知症啓発本棚（オレンジ棚）設立に協力した。</li> </ul>

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	4
公平性	4
協働可能性	4



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数（人） 図書修理ボランティア講座参加者数				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	10	—	10	10
実績	13	—	8	

### (2) 協働の状況（30年度(2018)）

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
<p>図書修理ボランティア養成講座（上級編）を開催した。受講者は、図書ボランティアとして図書館の破損本の修理を担い、その実績は年間約2,000冊に及んでいる。</p>

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>図書修理ボランティアが新たに布絵本の修理を試みることとなった。障がい者向け図書のサービス拡大につながる。</li> </ul>

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館講座の種類・回数を増やし、市民の参加を促していきたい。</li> <li>経験値の高い図書修理ボランティアが増えているため、関連施設での図書修理の講師等、活躍の場を増やしたい。</li> </ul>

## 7. 今後の方向性

**拡充**